

第2回 稲沢市学校施設整備基本計画策定委員会 議事録

1 日 時 令和5年7月15日(土) 午前10時

2 場 所 勤労福祉会館 第2・3会議室

3 出席委員 11名

栗林 芳彦、富田 健弘、鈴木 賢一、小川 紗希、
曾我 菜美子、甲斐 琴音、内藤 美文、吉川 永浩、
風間 哲郎、平野 直海、鈴木 明裕

欠席委員 1名

江寄 浩央

4 説明のため出席した職員

教育部長 荻須 正偉、
教育部調整監 森 義孝、教育部次長兼庶務課長 大口 伸、
学校教育課長兼指導主事 松村 覚司、
学校教育課統括主幹兼指導主事 伊藤 尚、
庶務課主幹 大崎 敬介、庶務課主幹 鈴木 達哉

5 委員長あいさつ

暑い日が続いていますが、本日の会議はメインの議題としてアンケートの方向性を決めるというテーマが入っています。細かい内容に関しては、これから先詰めていくわけですが、細かな方向性について皆さんと議論する機会は今回だけとなりますので、どういったことをアンケートでしていくべきかということについて慎重審議を賜りたいと思いますので、よろしくお願いします。

6 前回協議事項の確認

●庶務課長

6月3日に開催しました第1回会議の協議内容について確認をさせていただき、共通理解を図った上で本日の協議事項に繋げてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

1つ目は本委員会の目的です。協議会の協議事項1といたしまして、学校の標準規模や学校再編の基本方針等を定めた「義務教育と学校のあるべき姿」などこれまでの学校施設に関する方針の策定状況や国の動向などを踏まえ、この時期に本委員会を設置し検討する必要性に触れながら、本委員会の目的について確認させていただきました。本委員会の目的は、児童生徒数の減少及び学校施設の老朽化を受け、子どもたち

の教育環境を整備し教育の充実を図るという視点に立って、学校再編の具体的な構想を加えた学校施設整備について検討し、今年度中に計画を策定するというものであるということを説明させていただきました。委員からは学級規模や子どもの数だけではなくて、教員の配置数の視点も必要であることや、小学校の通学距離が「義務教育と学校のあるべき姿」では片道4キロメートルとされていることに対して、教材が増えている中で、子ども特に低学年のお子さんの負担が大きいといったこと、また学校再編には地域の協力が不可欠であるといったようなご意見をいただきました。

2つ目は、稲沢市の学校施設を取り巻く現状と課題です。児童生徒数の減少によるクラス替えのない小規模校の増加や施設の老朽化の状況に加え、学校敷地の借地状況といたしまして、県内で借地料、借地割合とも一番高いこと、また財政状況といたしまして現行の学校の建て替えや施設に係る財源が国の補助金があっても不足することなどを説明させていただきました。委員からはクラス替えのない学校があることへの驚きや懸念事項、あるいは今後子どもたちの教育環境の整備を行うに当たって、大変厳しい状況であるといったご意見をいただきました。

こうした市の現状や委員からのご意見を踏まえ、会議の最後に栗林委員長から本委員会における今後の議論の進め方について、次のようにまとめていただいています。学校が果たしている役割は実は教育だけではないということであるわけですが、これに関しては統廃合等々でその地域に学校がなくなるとすると、そこで学校が果たしている教育以外の部分の機能をどう継承するかということを考えていかなければならないということだと思います。ただ、会議予定があと5回ということで、その議論にどれだけ労力を掛けられるか、時間を掛けられるかというのは難しいところですので、まずは教育のあり方、子どもたちに公平な教育機会を提供するといったところを中心に議論を進めていくということでもまとめていただいています。

その点を踏まえて、本日は将来的な建て替えを視野に、子どもにとってより良い教育環境とはどういったものなのかについて、学校施設と学校規模の面から議論を掘り下げてまいりたいと考えています。学校施設につきましては、新たな時代の学びという視点で文部科学省の有識者会議が示したものをベースにご意見をいただければと考えています。また学級規模は、稲沢市の標準規模について定めた「義務教育と学校のあるべき姿」に定める標準規模に満たない小規模校におけるメリット、デメリットについて、前回も教員の配置数やクラス替えのないことについてのご意見をいただいておりますが、更に掘り下げてそれぞれの委員のお立場から率直なご意見をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

●司会

前回協議事項の確認がありましたが、委員の皆様から何かご意見、ご質問はございますか。

○委員

今のお話の内容が議事録ということでよろしいでしょうか。発言した委員が特定されないような記録の残し方なのか、その人が特定される議事録の残し方なのか。我々

委員としては特定されない方がありがたいと考えますが、どうでしょうか。

●庶務課長

議事録の残し方につきましては、第1回議事録はすでに市のホームページに上げさせていただきますが、内容については個人が特定されない範囲で、内容の趣旨が伝わるようにということで会議録を上げさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

●司会

ほかに何かございますか。

ないようですので、これより協議事項に入らせていただきます。学校施設整備基本計画策定委員会設置要綱第7条の規定により、委員長が議長となりますので、以後の進行は委員長にお願いいたします。

7 協議事項

- (1) 今後の学校施設の在り方について～新しい時代の学びから～
- (2) 学校規模について
- (3) 保護者アンケートについて

◎委員長

それでは、規定により議長を務めさせていただきます。

協議事項(1)今後の学校施設の在り方について～新しい時代の学びから～を議題とします。

事務局から説明をお願いします。

(事務局から資料1に基づき説明)

◎委員長

ただいま事務局から説明がありました。委員の皆様、ご意見、ご質問はございますか。

○委員

資料を見せていただいたときに感じたことは、これは文部科学省あるいは中央教育審議会の答申からの抜粋なのか、それに付け加えて稲沢市独自の文言、最後に口頭で言われたところは稲沢市の施策はこういう方向でという話がありました。この資料1の下半分は前回見せていただいたものと全く同じで中央教育審議会の答申からとったものだろうと思いますが、稲沢市のオリジナルな部分があれば教えていただきたい。

●庶務課長

資料1につきましては、資料1と記されたすぐ横の「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告として有識者会議のまとめたもので、稲沢市のオリジナルな部分を付け加えたところはありませんのでよろしくお願いいたします。

◎委員長

そのほか、何かございますか。

○委員

今いろいろな地域とのつながりとかのお話をいただいて、学校再編をした時に校舎の建て替え等をイメージしたところですが、再編するに当たって広い土地を購入して、いろいろな要望を言ったら、例えば地域の人が集まれる場所が欲しいとか、地域学校協働本部のコーディネーターの部屋が欲しいとか、学校の図書館を充実して地域の人に来られるように広くしてほしいとかなど要望はどんどん広がっていくのですが、そうすると教室も造らなければいけない、そういう要望にも応えなければいけないとなると、敷地が広がるから敷地も買いますよとか、稲沢市は随分借地を活用して学校が成り立っているところもありますので、要望を言えばそのとおりにしたら教室が狭くなるということがあるのか、要望があれば敷地も広げていって極力要望に沿う形で進めていくのか、その辺りを教えていただけたらと思います。

●庶務課長

要望と現実のバランスをどうやって取っていくのかというのは、確かにおっしゃるとおり課題だと思います。事務局としては、前回も説明しましたように借地については解消していきたいということがございますので、借地の多い学校を再編しようとするときは、第三の新しい土地を購入するとか、そういった方向性があるかと思います。100点を目指すのは当然なのですが、少なくとも現状から一つでも改善できるようにして実現したいという思いがありますので、要望を聞いて優先順位を付けていく中で、それをどこまで取り込めるかというのは今後の課題だと思います。100点を目指して造るというより、現状を改善したい、改善すべきところは優先順位を付けてどこまでクリアできるかということをそれぞれの地区ごとに課題がありますので、地区ごとに検討していくことになるものと考えています。

○委員

先ほど質問させていただいた意図は、中央教育審議会の有識者会議は、全国を見てまとめているので、よく読むと矛盾しているのではないかとこのところがあります。本当の過疎化した田舎で隣の学校へ行けと言っても車で1時間かかるというような地域の話から、都市部の東京でも統廃合が行われました。東京は学区の自由化が進んで、それによって消滅していった学校もありますので、そういうところは全然違います。公共交通機関が発達しているので、5分、10分歩けば、公共交通機関で隣の学校へ楽に行けます。そういう地域を全部一緒にまとめているので、それで稲沢市が本当にそれに当てはまるのか当てはまらないのか、精査して読んでいけないという思いで発言させていただきました。その辺をぜひ、読んでいると反対のことを言っていると思うようなこともしばしばありますので、それを精査していただけるとありがたいと思います。

◎委員長

そのほか、何かございますか。

○委員

文科省の新しい姿は、読み込むと、かなり踏み込んだ提案がされていて、ちゃんと

読むと私たちの知っている学校の姿と相当違ってきています。そういうところまで文科省が言っている意図は、おそらくこれまでの学校の姿と違うものをこれからつくっていかねばいけない、今までの50年とは違う学校の姿を示唆していると思います。これが、直ちに稲沢市に適用されるのかどうかはともかく、このタイミングで、後のアンケートのこともあったので、皆さんに新しい学校の姿を聞くと現状の課題が挙がってきて、アベレージまでしてほしいという話は出てくるのですが、これまで発想がなかった新しい学校の姿にはなかなか思いが至らないだろうという気がします。そう意味では、文科省のこの資料はちゃんと読むべき資料かなと思っていて、もちろんこれに従わなければいけないということはないとは思いますが、やはりそういう点で見た方が良くないかなというのと、もう一つ例えば障害を持ったお子さんたちの視点ですとか、職員の皆さんの声をなかなか拾い上げにくいというか、子どもたちを大事にしましょうと必ずなるので、職員の皆さんの職場環境を良くしようというのがなかなか表に出てこなかったり、そういうようなことが起こるのではないかと考えていて、全体を見るような視点が必要かなと思って、皆さんのお話を聞きながら感想を述べさせていただきました。

◎委員長

そのほか、いかがでしょうか。

○委員長

将来にわたる計画を策定する上で、非常に難しいのが我々は現在の延長線上でしか見ない、想定できないということです。実際には、破壊的イノベーションが起こって、全く我々が想起しなかったようなことが起こることだと思います。例えば、今一人一人にタブレット端末が配付される時代ですが、そういう時代が来ることを我々は10年前に予見できていたか。実はそうでもなかったりするわけですね。そういうことを考えてみると、現状に引きずられたというか、現状を前提とした発想、もちろん現実的な話としてはそういうことも必要なのですが、それだけでは難しい。そもそも学校再編というプロジェクトは、実は何十年もかかるものですよね。前回も、説明がありましたように、市が予算投下すると毎年1校ずつということすら難しい状況の中で、実際その計画が完了するのが多分20年、30年という時間が必要になるわけですが、その頃のことを予見しながら物事を考えていかななくてはいけない、非常に困難を伴う話ではあると思いますが、皆さん想像力豊かに既成概念にこだわることなく発言していただきたいと思います。

ということで、何かありましたらこの先の議題の中で確認していただければと思いますので、よろしくをお願いします。

それでは、協議事項(1)はとりあえず以上とさせていただきます、続いて協議事項(2)学校規模について、事務局から説明をお願いします。

(事務局から資料2、資料3に基づき説明)

◎委員長

ただ今事務局から説明がありました。委員の皆さま、何かご意見、ご質問はござい

ますか。

○委員

資料3の小規模校のデメリットということで、一つ目のクラス替えが全部または一部の学年でできないということが挙げられていますが、少ない人数で人間関係が固定してしまうと、なかなかこういうことがあると6年間一緒に過ごすのは嫌だなと思う子にとっては大変なのではないかと思います。そうすると、学級としては複数あった方がこうしたデメリットは解消されるのではないかと思います。子どもたちがどういう風を感じているのかは分かりませんが、小規模校の良さ、標準規模校の良さがそれぞれあるというお話をいただいて、全くそのとおりだと思います。小規模校のメリットも確かにあって、自分がへき地派遣で一つの学校に13人しかいないという学校で授業をしていた時に、それだけ小さくなると、地域のかたも学校のことをよく知ってみえるので、地域ぐるみで子どもたちを育てていける環境にあって、これが教育の原点だなと思いました。その後、稲沢市に戻ってきて、児童数が180人程の小規模校だったのですが、そこでも地域を巻き込んでいろいろやってみたいと思ったのですが、やはり180人いると地域のかたに声を掛けてもまとめることは難しく、小規模校としてのメリットは生かせないと感じました。そうすると、私のイメージでは、稲沢市の場合、クラス数が複数あって、クラス替えができるなど標準規模であるほうが良いのかなと思います。また、へき地派遣の時は、体育や音楽はやるぞと言っても4人しかいませんから、学期に一度ずつ集合学習というのがあって、そういう少ない人数の学校の子が一つの学校に集まって、合唱や合奏をやりましょうとか太鼓をやりましょうということをやっていました。子どもたちの姿を見ると、やはり大勢の中でこそ学べることも多いのかなと思いますので、そういう意味で人数が多い方が人間関係やいろいろな考え方を取り入れることで言うと、子どもたちにはたくさん人数がいた方が良いと思っています。

◎委員長

そのほか、いかがでしょうか。今日、この会議にいろいろな立場のかたにご参加いただいていますので、それぞれのお立場から小規模校、もしくは標準規模校のメリット、デメリットについて、実感されていることをお話いただければと思います。

○委員

小規模校のメリットについては先ほど、標準規模校のデメリットともおっしゃられたのですが、標準規模校のメリットについて、大規模校がクラスの人数を減らせばクリアできることでもあるのかなと思って、大規模校だとしても一クラスの定員が決まっていますが、そういったところを減らしていけば少人数での教育もできるのかなと思ったのですが、そういったことを変えることはないのでしょうか。

●庶務課長

1学級当たりの人数を変えることはないのかというご質問ですが、これは変えようと思えば変えられますが、今の国あるいは県の基準で、稲沢市では小学校1年生から5年生までが35人学級で、中学校では1年生が35人学級になっています。そして小

学校6年生と中学校2年、3年生が40人学級になっています。例えば35人学級を30人学級あるいは25人学級にすればという趣旨だと思いますが、実際は35人学級といっても36人になると2クラスになって1クラス18人になります。1クラスでも10人を切る学級から35人までであると先ほど説明がありましたが、稲沢市の実態はどうかと言いますと、7割の学級が30人以下の編成になっているという現状があります。小学校23校ありますが、そのうち9校が全ての学年で30人以下という編成になっています。ご質問の25人学級あるいは30人学級にすれば良いではないかというところを狙ったとしても25人学級ですと26人で2クラスになりますので、13人の学級ができてくるということと、あと物理的な問題で稲沢市の小規模校だけやろうと思うと、そうではない適正規模の学級との公平性という矛盾が生じてきてしまって、教室が足りないという影響も出てきます。教員も国、県の基準でないということになりますと、市独自で教員の配置が必要になってくることもあって、物理的にも苦しいところがあるというのが現状です。

○委員

市のかたは言いにくいかも知れませんが、学級数を一つ増やすということは教員を一人増やすということです。教員が一人増えるということは、県から予算が来ないので、稲沢市の税金から一人教員を雇うとなると500万、600万払うということになります。それが10校あれば5千万、6千万になります。それを稲沢市の予算の中から教育委員会が子どもたちのためだと言ってやることになります。皆がそう言ってくれれば良いですが、そう言ってくれないとやれない施策だということですよね。気持ちはやりたくても、教育委員会のかたはそうしてほしいと言っても、他のところでその前にこういうことをやらなくてはいけないよねということで、予算の取り合いになって、やってもらえないというのが実情ではないかと思います。

◎委員長

市民が使える一年間のお金の上限は当然あるわけですし、今の人口減少という状況からすると市の税収が将来的に大きく伸びるということは、なかなか想像しづらいところがあるわけです。そうすると、現状の市の予算規模で物事を考えていかなければいけないという制約があるのは事実です。ただ、これは優先順位の問題でもあるので、そこは頑張っていたきたいということですね。

ほかに何かございますか。

○委員

今まで、小学校、中学校の学校の意味として、子どもたちの教育の場ということは分かっていたのですが、地域のコミュニティの核ということは全然意識していなくて、正直選挙の時に体育館に行くくらいにしか思っていませんでした。地域のかたたちが小学校をコミュニティの核として考える行事がどういったものがあるのか正直わからなくて、小学校がなくなるのは嫌だという意見がありますが、学校によっては新しくなっていたり、世代によって通っていた当時の学校と違うということもありますので、地域のかたがこだわる理由が正直分からなくて、小学校をなくしたくないと思っ

ているのはなぜかなと疑問に思っています。借地の件も建て替えの件もそうですが、今子どもたちに教育の場をつくるのも大事ですが、費用が掛かることは今後子供たちが背負っていくことにもなりますので、そういうことをトータルで考えると、学校を無くしたくないという意見や近くの小学校に通わせたいという意見も分かりますが、そういった負担を子どもたちが将来背負っていくことになるので、そういったことも踏まえて考えるべきなのかなと思います、その辺のことも教えていただきたいと思っています。

●庶務課長

学校に対する想いは人それぞれだと思います。稲沢市には各中学校区にまちづくり推進協議会というのがある、その役員のかたにこの委員会にも参加していただいています、そこが核になって青少年の健全育成に向けた取り組みや、幅広い年齢層が一緒になって活動することで、その地区を盛り上げていこうという活動をしています。そうしたときに学校が会場になる地区もありますので、そういった意味で学校に対する意識が芽生えてくる、逆に言えばそこが行政の狙いでもあるわけですが。そういったこともあると思います。

○委員

私たちのまちづくりは、児童の登下校から始まっています。学校施設を建て替えることについては、やはり市の主導型で今まで来ていました。具体的に案ができた時点で市民に知らされる。広報などで一方的に流されるものですから、見るかたが少ないですね。広報はお子さんが生まれて、そんなときに見られるかたがほとんどだと思います。まちづくりとしては、説明があったように老人会、まちづくりといろいろな団体があって、それぞれ学校を主体に考えています。私たちは将来の稲沢を背負っていただけるかたのお子さんたちは原点ですから、そこでいい思い出を作ってください、ふるさと稲沢はいいなと思っただけの施設を目指してほしいと校長先生を含めてお話をさせていただいていますが、なかなか今までの体制は行政の中に入っていけなかったというのが事実です。今回このような組織を作ってください、それぞれの立場で意見を言っていただくというのは大変良い機会だと思います。それと、小学校23校、中学校9校、それぞれの数字が網羅されています。今年生まれた子が6年後に小学校1年生になる。その間、ずっとクラスが減っていく、生徒が減る。そうした中で6年後を見据えると統廃合を無視していいのかという問題も考えられます。そうしたことも私たちは考えながら、今後審議会を進めて行かなければと考えています。そうした中で、私が市に要望したいのは、こうした物事の考えがあれば速やかに私たちに知らせてほしいということをお願いいたします。

◎委員長

一つお聞きしたいのですが、学校がまちづくりや地域のコミュニティの拠点になってというのは、建物としての学校の機能なのか、それとも行政単位というかコミュニティのエリアの一つの単位としてとして学校区が単位になっている、どちらもあるのでしょうか、両方ということではよろしいでしょうか。

○委員

稲沢市に住んでいるとはいえ、私は祖父江町に住んでいますので、土地は広くて小学校が6校あるという場所になります。例えばそれが統廃合されて数が減った時に、子どもたちが帰ってきてから遊びに集まる場所、今は近くに公園が、住民が少ないからということで新しく公園をつくっていただけないということを昔市のかたに問い合わせをしたときに返事をいただいたことがあります。ですので、新しい公園ができなくなると、遊具で遊んだり、各家庭に行くのではなく、気軽に遊べる場所としては小学校に集まって遊んでいる姿をよく見かけるのですが、そういった場所が減ってしまうということも現実として起こるのかなと感じています。

あと、地域のかたがたが防災訓練をされたりとか何か行事のときに集まる場所としても活用されているのではないかと思います。中学校があるとはいえ、そこに全員が行くわけではなく、自分の近くの場所、自分の子どもたちが通った場所であったり、子育てしてきた地域であるからこそ横のつながりもあって、集まった時に声を掛け合ったり、協力し合ったりできるのかなということは感じていますので、ただただ減らして無くなってもいいのではないかという風に話を進めてしまうと、そうでない意見、そちらにもやはり耳を傾けて進めて行くべきではないかと感じています。

○委員

逆のパターンを20年くらい前に聞いたことがあるのですが、20年前というと子どもが増えて学校を分けなければいけないという時期だったのですね。学校を分けるときにどういう議論になったとかというと、その地域のかたが、またこっちに行かなければいけないのかと。というのは地域のかたは学校を育てたという感覚を持ってみえたのです。この学校を我々がやっところまで育てたのに、またここを分離するというと、また新しい学校を育てろということなのかと地域のかたは思ってくださっている。という感覚を持ってみえるかたもたくさんいるということを我々は知っておくべきだと思います。それから古い学校ですと、学制が始まったときですから明治5年に建てられた学校がこの中にたくさんあるわけです。それから150年間育ててきたという地域がある、そういう自負がある地域のかたもみえるということも知って判断していかなければいけないと考えます。委員長が言われるように難しい問題で、1年、2年ではなく、本来なら20年、30年かけて、だけどそれが待たないという状況になってきているところまで迫られているというところで、先ほど話がありましたようにデメリットはできるだけ解消して、メリットを活かすようにしてどうするかということを考えなければいけない。絶対デメリットはあります。その中でより良い方法を選んでいかなければいけないということを強く感じています。

○委員

学校の建物造りに携わってきて思うのは、学校は主のいない建物だなと思っています。主がいないというか、子どもたちも小学校は6年間で通り過ぎてしまいます。思い出は残りますが、当然保護者の皆さんも、後に何らかの関わりがあるにしても一旦は終わり。学校の先生も6年間ずっと通しているかたは少ない。行政のかたもどんど

ん代わっていってしまっていて、器だけがずっと使われる不思議な建物なんですね。誰が、ずっと見守っているかという、結局は地域のかた、そのそばに住んでいるかたが、長い間みていてくださる学校が良い学校、良いという大変ですが、みんなから愛される学校になっているなと思っています。建物として考えるのではなく、やはりコミュニティの拠点として考えていかないとまずいだろうなと思っています、先ほど他の委員がおっしゃったように、今学校づくりの中で地域の皆さんと一緒に学校づくりするケースが多いのですが、その話し合いの中で結局は地域の皆さんが学校の中に入れる拠点を欲しいという風になっているケースが結構あって、校長先生が一生懸命声を掛けなくても、そこにコーディネーターのかたがいて、きちんとまちと学校をつないでいく。そして子どもたちを見守るし、学習のサポートに入る人を集めてくるし、場合によってはPTAもどうなんだという話になってきて、自主参加のPTCAみたいな動きも出てきていますので、今までの姿と変わってきているのかなという気がします。

◎委員長

PTCのTはティーチャーのTですか。

○委員

Pはペアレント、Tはティーチャー、Cはコミュニティ、Aはアソシエーションですね。

◎委員長

学校の果たす役割は多様なものがあるということですが、ただ方策を進めていく上で、優先順位を付けていかざるを得ないということです。実際、統廃合ということだけでなく、建替えや改修などいろいろな形で校舎の学校メンテナンスや改善をしなければいけない。すべての要求、ニーズを満たすことは基本的に難しいわけですから、その中で、何を優先していくべきなのかということについて、明確な方向性を持って進めていく必要があると個人的には思います。

それでは、だんだん時間も迫ってきましたので、残りの時間をアンケートの内容についてということで、進めて行きたいと思います。

続いて、協議事項(3)保護者アンケートについて、事務局から説明をお願いします。

(事務局から資料4に基づき説明)

◎委員長

ただ今事務局から説明がありました。あくまでも、提示していただいた内容は、方向性を定めるたたき台ということで捉えていただきまして、その内容について委員の皆さまから何かご意見、ご質問はございますか。

○委員

第1回の会議で、アンケートの検討というのが年間を通してあったのですが、今回内容が提示されて、アンケートには保護者アンケートと書いてあったのですが、このアンケートを保護者だけに限定したのはなぜか、最初にお聞きします。

●庶務課長

昨年、市民意識調査の中で、無作為抽出で市民2,500人を対象に調査を行い、回答

率は 60 パーセントでしたが、全世帯に聞いていますので、今回はそうではなくてまさしくこれから主役というか当事者である世代にアンケートを行って、学校施設に対する要望を聞いた上で整理していこうという趣旨で保護者アンケートという形を取っています。

○委員

資料 4 の裏面の設問の最後にその他というところがあって、学校が地域に果たしている役割について、先ほどコミュニティの話もありましたし、委員長の言われたように先を見越して今とは違う学校のあり方も考えながら再編等を考えていくとすると、アンケートは保護者だけで、その前段階で全員に取っているということですので、今回は保護者でやっていけば良いとは思いますが、最終的にこのアンケートを公表して、パブリックコメントもあります。学校はどうあるべきかということを中心とした市民の意見を聞く機会があると良いと思います。もう一つ具体的に小学校 5 年生、2 年生の保護者のかたにということで、質問紙を紙媒体で学校が配って、紙を回収して市の職員が集計されるのかなと思いますが、9 月からアプリで学校から発信する tetoru というのが活用できそうですが、学校から配布するものについても紙媒体からデータ化されるという風になってくるとは思いますが、こういうものも紙を配って QR コードを何か付けて、そこから答えてもらったら市に回答が返ってくるというようなことをやっていただくと、職員もこれ家の人に配ってやってもらってね、持ってきたか、早く持って来いよとか、そうしたことも労力としては軽減されるのではないかと思います。

◎委員長

いくつかご指摘いただきましたが、作業手続き的に、これを配布して小学校 5 年生と 2 年生については学校で配布して、学校で回収するわけですが、封筒とかに入れてやり取りするわけですね。もちろん回収に関して学校で集めていただくのが表面上一番コストが安いのですが、郵送で返信というと予算的に難しいのですか。

●庶務課長

郵送で返信する予算を取っていないため難しく、今ご提案があった QR コードを取ってということも考えたのですが、内容がかなりデリケートな内容になりますので、実際に配ってその紙を回収したいという思いがあって、学校や保育園、幼稚園にご迷惑をお掛けするのですが、実際の数を把握したうえで調査をさせていただき、直接やり取りをさせていただくという方法を考えています。

◎委員長

こういった手続きの際、まずは完全な形で回収ができるかどうかですね。これは封筒を糊付けして回収するということですか。

●庶務課長

糊付けまでは考えていなくて、名前を記載していただくものではございませんので、お渡しした封筒にそのまま入れていただいて回収させていただくことを考えています。

◎委員長

できれば糊付けが望ましいですね。途中で誰かが改ざんする可能性がゼロではありませんので、そういった意味では開封するのは大変ですが、まず完全な形で回収するという意味合いからすると、糊付けが望ましいと思います。それから、保護者に絞ってというのは、まずは教育の観点で一番の当事者であるところの保護者から話を聞くというという理解でよろしいですね。

そのほか、何かございますか。

○委員

今、小学生の児童の保護者は、子どもがコロナが始まってから入学したかたが多いので、学校で地域交流のような活動が一切なくなっていて、私も親として聞いたことがほぼないというか、5年生、2年生、年中の保護者にアンケートを取った時に、地域交流の場としての認識が全くないに等しいと思います。そこで、こういった交流がありますとか書いていただいた方が、そういう活動が今後できるということが認識できると思いますので、そういったものを入れていただいた方が、今後に向けて正しいアンケートになるのではないかと思いますので、よろしくお願いします。

○委員

この手のアンケートは、ただ投げるだけだと回収率が20パーセントから30パーセントくらいですかね。学校を通じてやられるということなので、もう少し増えるとは思いますが。とても大事な質問をしているので、ちゃんと答えてほしいという気がいつもしていて、でも自分もアンケートに答える側になると面倒くさいと思ってちゃちゃっとやってしまうのですが。例えば通学距離とかメリット、デメリットなんかも今日示していただいているような資料を読み込んだうえで答える場合と、第一印象で答える場合では意味が違うと思っていて、こういう質問をするかどうか分かりませんが、読み込むときにどういう意図で答えているかがわからないと扱いに困るなという気がします。あるいは、施設整備の方針のところ、小中一貫校の話が出てきますが、こういう小中一貫校を本当にやるとなるとどうしたら良いのかという問題だと思いますが、安易に聞くと印象評価で知らないからみたいなことになったり、ちょっと怖いなという気がします。丁寧にこういう意図があってこれを聞いているということが伝わるかどうか心配です。

それから施設整備全般のトイレ洋式化、空調整備やバリアフリーなどの環境改善は当たり前のことになって来ているので、これで確認するというのであればもう一度聞くということになるのですが、やらないことはないと思いますので、なぜこういう質問をするのか。せっかく作っていただいてけちばかり付けて申し訳ないですが、そんな感じを受けました。

○委員

今の意見と重なる部分が多いのですが、私も小中一貫校はすごく唐突だなと思いました。一つ目は、アンケートを実施する際に、基本資料を付けるのか、付けないのか。ほかの委員も言われたように、地域活動としてコロナ前にはこういう活動がありまし

たとか、そういう資料を付けて読んで、アンケートに答えるのかどうかということ。いきなり渡されてもどうか。そのことで言うなら、唐突に思ったのは、小中一貫校と義務教育学校とは違いますよね。やはり義務教育学校や小中一貫校について、文部科学省がこう言っています、それはこういう意味ですという資料を付けるべきではないか。そうではなく、単に「小中一貫校」と言ってしまうと、様々な誤解を生むのではないかと思います。

これも同じことを感じるのですが、今後の施設整備方針に関する設問の1番目は、やるのは当たり前でしょう、もし問うなら優先順位を聞くべきではないですか。どれからやってほしいのか。問うなら優先順位かなと思います。

裏面に行きまして、通学距離と通学時間を聞いていますが、下から2番目の通学距離が2キロ以下、2.5キロ以下、3キロ以下などとありますが、これの目安が私には子どもがいませんので、分かりません。このキロ数は、これだと小学校高学年の子だと何分かかりますとか、それがわからないとキロと言われても答えようがないです。小学校低学年と高学年では全然掛かる時間が違いますよね。歩く速さは、1年生の子が何分、6年生だとだいたいこれくらいですということを示していただく。それは工夫して、例えば間を取って3年生、中学年の子ならということを書いていただいても良いですが、そうでないと答えづらいだろうと思います。イメージしている子によって答えが違って来る気がします。

それから、次の通学時間についてもそういうことが言えるだろうと思います。小学校1年生と6年生では違う。それともう一つ、通学時間と聞いたときに、これは徒歩をイメージしているのか、それとも将来を考えて、徒歩プラスバス。要するにスクールバス、遠いところを子どもが通うことを考えて、市はスクールバスを考えていますよ、スクールバスと徒歩を合わせてこれくらいの時間なら許容範囲ではないか。徒歩で考えたら、これはとんでもないですよ、これは考えてほしいというつもりで聞くならば、そういうこともある。それは先の話だからそれはカットして、徒歩でと書いてもらえば良いと思います。それがわからないということです。

次に、学校規模によるメリット、デメリットに関しても、私が受けたら書けと言われても答えられないなと思います。もし、やるならばそれぞれ4択にして、あなたの考えに近いのはどれですか、例えば学習活動は可能と書いて、賛成、ほぼ賛成、ほぼ反対、反対など4択で聞くようにしないと、例えばこれで、ここで選べという意味なのかどうなのか。中1ギャップの解消ということについても、そう思う、ややそう思う、そう思わない、全然思わないという風に選択肢を与えて○を付けないと答えにくい設問が多いのではないかと感じました。

◎委員長

今のご指摘はごもっともですね。委員の発言から私も思いましたが、設問に答えるだけの根拠となる知識を保護者が持ち得ていないという場合、何を判断材料にして答えて良いのかということが不明です。例えば、我々がこういう議論しているときに、今日の資料2のような今の稲沢市内の小中学校の現状の資料をいただいているので、

いろいろな立場から意見を言えるのですが、当然のことながら保護者の皆さんはそういった情報を持っていないわけですよ。それで、調査を行う上で、どういう立場でお答えいただくのか、どういう知識の範囲で答えていただくのかということについて、きちんとした方針を持っていないといけないと思いますし、このアンケートについて、一保護者としてどう考えるかという設問と、それから稲沢市の教育のあり方、さらに言うとまちづくりの拠点としての学校のあり方といった大所高所から判断するような設問の両方が混ざっている気がします。ですから、保護者に関しては、一般の保護者が答えるのはかなり難しい部分があるかなと思いますので、この調査で本当に知りたいことは何なのかということ、もう1回吟味することが必要なのかも知れないという印象を持っています。

そのほか、何かございますか。

○委員

稲沢市と言っても、私も祖父江町なのですが、他の保護者のかたとまちづくりの会議に出たことがあるのですが、稲沢市の中心の方は公園も充実していますし、小学校も保育園も2階建てとか、祖父江町は同じ稲沢市だけど全然違います。このアンケートも祖父江町の人からしたら、私も地元が祖父江町で、その当時から1学年1クラスしかないまま育ってきて、子どもも単学級ですが、稲沢の市街地の方は、親の時代から現在まで複数クラスあるのが当たり前の感じ。聞くかたによって意見は全然違うと思いますが、小中一貫についての質問も、祖父江は1学年1クラスの学校が6校あるから、それをまとめた方が良いのではないかなという趣旨で質問しているかなと思ってしまう。市街地の方も含めて稲沢市全体でのアンケートなので、そういう趣旨ではないとは思いますが。祖父江町と市街地の方は別物というか、まちづくりの会議に出た時も、みんなにエッとと言われるぐらい市街地の人たちは祖父江町の現状を知らない。市街地の現状を、私たちも知らなくて、それがこのアンケートをいきなり配られても、祖父江町の方は祖父江町の考えでしか答えられないし、市街地の人たちもそちらの当たり前の考えでしか答えられないので、まとめて取るとまた違う考えになるのではないかなと思って、それがちょっとわからない、私は祖父江町に育ってきたからそれが当たり前なので、都会の人の考え方がわからなくて、そこがちょっと心配でした。

◎委員長

物事を判断する際に、ご自身の経験でしか判断できないことがたくさんありますので、その点に十分配慮した形で検討を進めなければいけないと思います。

○委員

アンケートのその他のところの学校施設とその他の公共施設を一体的に整備するということですが、同じ敷地内ですか。敷地内で誰でも自由に入れる状況であれば、放課後児童クラブしかないと思っていて、図書館、公民館、誰でも同じ敷地内に入れるとなると、私は子どもたちのことが心配なので、他の施設は一切造っていただきたくないという意見になります。今でも門を開ければ入れるのですが、簡単に入れない

ように先生方が一生懸命して下さっている中で、こういった施設をどのように整備するつもりなのか教えていただきたいと思います。

●庶務課長

おっしゃるとおり、安全に配慮する必要があって、ここに例として挙げさせていただいていますが、全国で公民館や図書館を一体的に整備している学校があります。そういうところは、時間帯によって子どもたちしか使えないように動線を考えて、子どもたちがいなくなった時間に地域の人たちに使っていただくというような配慮をしています。イメージとしては、子どもたちが使う時間帯と地域のかたが使う時間帯を分けるイメージをしていますが、おっしゃるように分かりにくいので、その点を含めて検討していきたいと思います。

○委員

話が戻りますが、私も小学校の頃から子どもは単学級で育ってきました。幸いうちの子どもは人間関係に恵まれまして、強いきずなができるくらいの学校生活を送ることができました。なので、私は今までこういうアンケートに答えた時に、正直なんかいろいろ書いてある、よくわからないけどという感じで答えています。もちろん自分の子が通っている学校に不満はないし、単学級がデメリットだとはあまり感じなかったものですから、今回こういう話を聞かせていただいて、人数が増えることで、そんなに良いことがあるんだという考えの下、改めて私が今答えたら全然違う答えになっているのではないかなと自分でも思います。それはやっぱり、こういう資料を見て、話を聞いて、だから考えが少しこちらに傾きつつあるのかなというアンケートの答え方です。もし、資料を付けたとして、何人のかたがそれを見て答えるのかというと、少ないのではないのかなと思いますので、それをどう伝えて、こういう風に考えています、こういう未来がありますよというのが保護者に伝わると、アンケートの答えが変わってくるのではないかと思います。

○委員

私も、分厚い資料が付いた重いアンケートはやる気にならないなと思っていて、やはり皆さん忙しいので、どちらかというところ、簡易に今の感覚で答えられる質問にした方が良いかなという感じがします。資料を読み込まないと答えられないというアンケートでは、きちんと時間を取ってやれば別でしょうが。やはり、地区別の分析をしっかりしていただいて、オール稲沢市の資料ではなくて、こことここはこんなに違うみたいな分析をきちんとしていただくのが大事かなと思いますし、もう少し話を広げると、これまで学校は平等でという考えでどの学校も同じような造りをしていますが、もう少しカスタマイズするというか、地区ごとに個性的な学校づくりを目指した方が良いのではないかなという感じがします。田舎と都会の違い、それだけではないと思いますが、住んでいるかたとかいろいろなキャラクターもあるでしょうから、何かそういう地区の個性を反映する学校づくりをどういう風にしたら良いかというのを、それこそ地域のかたの意見を引っ張り出すためのアンケートになるといいかなと思います。とにかく、我々は変化を望まない人間だと思います。具体的に変化に対して弱いとい

うか、今までどおりを続けたいという気持ちが強いと思いますので、変化を求めようとするときにはかなり丁寧に説明しないと、逆に反発を食らってしまって、まずいのではないかなという気がします。

○委員

私は、稲沢市ではなく違う市町村の施設で勤務していますが、そちらの市から利用者にプリントの配布をお願いしたいという依頼を受けました。その内容を見させていただいたら、そちらも稲沢市が抱えている問題と同じように、これから子供が減っていきます。統廃合しなければいけない方向に向かっていくのではないかという内容で、少人数であることのデメリットやメリットなどというような内容のプリントが入っていました。話を少し聞いてみると、学校には配付をしてあるので、小学校に通って見えるご家庭には配られているので、それ以外のかたに配ってくださいということでした。それで、乳幼児とかそういう施設、保育園に通っていない方へ配るものとして預かりました。そういう風だったので、みえた親子に話をさせていただいて、市役所からお手紙が来ていますので、良かったらご自宅で見てくださいと声を掛けたところ、回覧で見ましたというかたが中に数名みえました。ということは、そちらの市ではそういう内容のものを作られて、地域のかたはじめ、小学校、保育園、そちらのかた皆さんに目を通していただきたいという形で配布なり回覧なりをされたようなのですね。それがどこまで目が通っているか分かりませんが、それがあってこそそのアンケートであればかなり内容が変わってくるのかなと思います。最初に先生がおっしゃられたとおり、アンケートをただ受け取った保護者で、ああーという風に答えたものと、内容をよく吟味して答えたものとは、絶対的に言葉、内容、答えが変わってくると思いますので、そういった方法をまだ間に合うのであれば、そういったことを何かしていただけると、本来のアンケートの意味があるのかなと感じます。

○委員

義務教育学校といったときに、一般的に小中一貫というと、今ある小学校を統合して一つの中学校へ行くというのはすぐに思い浮かびますが、例えば今小学校のいくつかを中学校と分離独立して新たに義務教育学校をつくるという発想はあるのでしょうか。小学校が2つ、3つあって、ある中学校がぎりぎり標準の人数より多いけれど、それを分けてこっちに移して、そこで新たな義務教育学校をつくる、そういう発想はありますか。つくるというと、今減ってきている小学校と中学校を既存のところにまとめてしまえという発想が多いと思います。そのあたりはどうかと思い、発言させていただきました。

○委員

義務教育学校は校長が一人で、1年生から9年生までトータルで、小中一貫校や小中連携校というのもあって、それも並列してありますので、その場合は校長が2人きちんといて、校舎が一体になっているか別になっているかはともかく、運営上小学校から中学校までシームレスな教育課程を持っているという言い方をしています。そういうところまで稲沢市が目指そうとしているのか、いわゆる小学校と中学校の連携、

幼から小への連携とかそういう少なくとも義務教育段階のつながりをもう少しこれまでの6.3できちんと断ち切るのではなくて、つなげようとしているのか、施設が先行するのではなくて、その辺のコンセプトが大事なかなと思いますので、そのあたりで何かコメントをいただければと思います。

◎委員長

事務局、お答えできますか。それとも、次回の宿題にしますか。

●庶務課長

次回の宿題にさせていただきます。

◎委員長

では、時間も少し超過しましたので、アンケートについては、いろいろなご意見をいただきありがとうございました。事務局の方でまとめていただいて、次回案として反映させていただくということをお願いします。

それでは、最後の4. 連絡事項について、事務局からお願いします。

8 連絡事項

(1) 事務局から次回の会議日程及び視察について連絡

① 第3回の会議は、9月2日(土)午前10時から勤労福社会館の2階、第2・第3研修室で開催

② 8月1日(火)実施予定の瀬戸市立虹の丘学園の視察について説明

(2) 教育部長から公募委員について報告

今回の基本計画策定委員会の委員を公募した件について、5月12日金曜日に応募の動機、学校施設の老朽化や標準規模に満たない学校の増加に対する考えを400字から800字にまとめて教育委員会へ持参、郵送、FAX又はEメールで提出していただく形で委員を公募し、8人のかたから応募があり2人を選任しました。

その後、第1回策定委員会終了後に、公募委員にFAXで応募したが、結果について事務局から何も連絡がなかったというお叱りの電話をいただいた。そのFAXの内容について教育委員会で探したが、それは見つかりませんでした。委員の選定が終わってしまっているのに、今から委員の選定はできないことをご理解いただきたいとお願い申し上げたところ、こういうことがあったということを委員会で報告してほしいと言われましたので、第2回策定委員会の席で報告させていただきました。また、今後このようなことが起きないように対応していきたいということが報告された。

◎委員長

それでは、時間が超過してしまいましたが、今日の会議はこれまでとさせていただきます。それでは、これで事務局にお返しします。

●司会

栗林委員長、ありがとうございました。

終わりにあたりまして、教育部長からあいさつ申し上げます。

●教育部長

<お礼のあいさつ>

●司会 これをもちまして、第2回策定委員会を閉会いたします。お帰りは交通事故に気を付けてお帰りください。

閉 会 【午前 11 時 45 分終了】